

フリーライター A さんの裁判では、性的被害を受けた後も“何事もなかったかのように”仕事を続けたことが争点の一つになっています。被害を“なかったことにしよう”と考えたり“(加害者の) 機嫌を損ねないように”対応したりすることは、よくあることと言われます。こうした被害者心理について、さらにフリーランスへのセクハラ・パワハラの実態について学ぶことで、本裁判への理解を深めていただければと思います。

## オンライン勉強会

# セクハラ・パワハラ裁判と被害者心理

日時●6月16日(水) 18時30分~20時

開催方法●ウェビナー (Zoom)

申し込み方法●「こくちえずプロ」(QRコード参照)で、6月15日(火)までに参加申し込みをお願いします。申し込まれた方には、ウェビナーへの参加に必要な情報を送ります。

参加費●無料

主催●フリーライター A さんの裁判を支援する会、出版労連、出版ネッツ

問い合わせ先●

a-shien@syuppan.net (フリーライター A さんの裁判を支援する会)

☎ 03-3816-2911 (出版労連)



### ◆講演◆

セクハラ・パワハラ裁判と被害者心理

青龍美和子弁護士、長谷川悠美弁護士 (東京法律事務所)

### ◆話題提供◆

#### ①性暴力に関する刑法改正の動きについて

小川たまかさん (ライター): 主に性暴力を取材。著書に『「ほとんどない」ことにされている側から見た社会の話を。』(タバブックス)。

#### ②なぜ声をあげづらいのか—「表現の現場ハラスメント白書2021」より

田村かのこさん (アートトランスレーター): アート専門の翻訳・通訳者の活動団体「Art Translators Collective」代表。表現の現場調査団メンバー。

木村奈緒さん (フリーランス): ライター業を中心に、取材執筆ほか各種プロジェクトの企画・運営などを行う。表現の現場調査団メンバー。

#### ③支援者から当事者になり見えてきたこと

八幡真弓さん (Praise the brave 代表): 10代から女性支援に関わるが、自身もレイプ被害にあい当事者に。支援者・当事者の両方の視点からDV・性暴力を捉える。

